

令和7年度四国地域エネルギー・温暖化対策推進会議 支援プロジェクト

	プロジェクト名及び概要	応募者名・団体名	支援してもらいたい内容
No.1	【フードドライブ活動LOOP～つながる輪～笑顔の輪～】 本プロジェクト「フードドライブLOOP～つながる輪～笑顔の輪～」は、2021年10月30日の「食品ロス削減の日」を契機として始めた取り組みであり、家庭で余った食品を集約し、これを寄付することで、食品ロスの削減と地域福祉の向上を同時に目指している。これまでの活動では、累計6,000kgを超える食品を寄付しており、地域住民の皆さまと交流を深めながら、地域活性化にも貢献してきた。食品ロスの削減は、限りある資源の有効活用だけでなく、貧困や生活困窮といった社会課題の解決にもつながる。また、食品の生産・輸送・廃棄には多くのエネルギーが使われており、それらを削減することは温室効果ガスの排出抑制にも寄与する。 本プロジェクトでは、フードドライブを中心とした活動を通じて、地域住民に食品ロスや貧困の問題、SDGsなどへの理解を深め、自らの行動が社会や地球の未来につながっていることを実感していただくことを目指している。この活動では、①未開封、②常温で保存できる、③賞味期限が1か月以上残っている、などの基準を満たす食品を持ってきていただくフードドライブ活動を実施しており、この活動で集まった食品はすべて高松市社会福祉協議会や開催地域の社会福祉協議会、フードバンク香川へ責任をもって寄付する。寄付していただいたものは、各社会福祉協議会から支援を必要とされている方々へフードパントリーなどを通して配布していただく。また、フードドライブ活動を実施するだけでなく、香川県から香川県食品ロス削減推進キャラクター「たるる」をお借りし、寄付してくださる方だけでなくコミュニティセンター利用者や開催場所の近隣の小学生にも食品ロス削減の呼びかけを積極的に行う。さらに、フードドライブ活動に協力してくださった方に「食品ロス削減リーフレット」や「たるるのグッズ」等をお渡しすることで、食品ロス削減の啓発活動に努める。	香川大学学生ESDプロジェクトSteeP	① 本プロジェクトの開催情報や趣旨について、推進会議構成員のネットワークを通じた情報発信、参加募集の協力 ② イベントの広報活動等における、推進会議イメージキャラクター「エコくん。」の画像やテーマソングの使用 ③ 香川県内の広報媒体（ホームページ、SNS、広報誌等）での情報掲載や、ポスター・チラシの掲示協力 ④ その他、取材・掲載等による周知活動への支援
No.2	【未来に繋ごうば真珠のふるさと愛南町～幹縄筏が生み出すブルーカーボンプロジェクト】 愛南町は全国トップクラスの真珠母貝（アコヤガイ）生産量を有しているが、ウイルスによる大量斃死や漁業者の高齢化、後継者不足などにより、真珠産業の存続は危機的状況である。 真珠母貝養殖に使用する筏（幹縄筏）には、アコヤガイの養殖に支障となる海藻マメタワラが毎年繁茂しており、漁業者は、これを日常的に除去し、同海域の『藻捨て場』と呼ぶ区画に移す作業を行っている。 本事業では、このような漁業者の日常的な管理について、実はCO2を効率的に海中へ移送するブルーカーボン創出源であると捉えたプロジェクトであり、令和5年12月にジャバンプルーエコノミー技術研究組合（以下「JBE」という。）（注1）が運営するJブルークレジット（注2）の認証を受けており、取得したクレジットは、海の環境保全、真珠産業の保全・活性化、持続的な水産業の確立・水産人材育成など、愛南町の海業（注3）の取組に活用し、町全体の活性化を図っている。 （注）1 JBEは、2020年7月に設立された国土交通大臣認可の技術研究組合。沿岸域における気候変動対策を促進し、海洋植物によるブルーカーボンの定量的評価、技術開発及び資金メカニズムの導入等の試験研究を行う。 2 Jブルークレジットは、JBEが独立した第三者委員会による審査・認証を経て発行・管理する取引可能なカーボンクレジットであり、企業が温室効果ガスの削減目標を達成するための手段としても活用可能。 3 海業は、令和4年3月に閣議決定された水産基本計画及び漁港漁場整備長期計画に導入された用語。関係省庁の協力と連携の下、強力に推進していくこととされている。 なお、愛南町は、令和5年3月に全国12の「海業振興モデル地区」の1つとして、中四国地方で唯一選定されている。	愛南町ブルーカーボン推進協議会	① イベント等における後援名義、募集のための周知・呼びかけ等 ② チラシへのエコくんマークの使用

No.3	【服から始まるサーキュラーコミュニティ〜地域発！脱炭素アクション〜】 衣類の大量消費と大量廃棄が進む中、環境省の調査（令和2年度「ファッションと環境に関する調査」）によると、日本国内の衣類新規供給量は81.9万トンであり、そのうち約62%にあたる51万トンが廃棄されている一方、リサイクルは15%（12.3万トン）、リユースは18.8%（15.4万トン）にとどまっています。 また、上記調査によると、国内に供給されている衣類から排出されるCO2（原材料調達から廃棄まで）については、9,500万トンと推計されており、衣類のリユースは温暖化防止に資する重要な取組となっており、2025年2月に閣議決定された「地球温暖化対策計画」でも、地域の創意工夫を生かしたリユース等の資源循環は、経済活性化や雇用創出、SDGsの達成にも資する重要な施策として明記されています。 当法人は、2010年に全国初となる学生服専門リユース店を香川県高松市に創業し、現在では全国に約80店舗を展開しています。不要になった学生服や衣類を回収・再生し、必要な家庭へ届ける仕組みを構築すると同時に、子育て世帯への支援として高松市社会福祉協議会と連携し、子どもの貧困対策にも取り組んでいます。2017年には内閣府「子どもの未来応援国民運動」に参画し、全国の企業・自治体・学校と協働で、不要となった衣服・制服を回収する「ツナグ回収ボックス」を全国1,000カ所以上に設置。持続可能な衣類資源循環モデルの実装を進めてきました。 現在、当法人が収集・回収している衣服・制服のうち、約4割がリユース可能ですが、残る6割については行き場がなく、リサイクル・アップサイクルの新たな道を模索しています。その一環として、使用できない衣類を伊藤忠商事のオンラインショップ「学校生活」や、JPLAN（日本環境設計）の「BRING」などと連携しました。 さらに、2024年には香川県観音寺市の田代商店と連携し、リユースできない衣類を工業用ウエスに加工する取り組みを開始。こうした衣類資源循環の拠点として、同年には香川県高松市三条町に「衣服制服資源循環センター サステナリビング」を建設。現在では、企業・行政・学校などから衣類・制服の回収依頼を受け付けしています。 また、さくらやに来店される子育てママさんには、保育園などで使用する洗い替えの服が多く必要という悩みが多いため、「子ども服0円交換会」を毎月1回開催しております。	学生服リユースshopさくらや高松店	① 「子ども服0円交換会」における後援名義、募集のための周知・呼びかけ等 ② チラシへのエコくんマークの使用
------	---	--------------------	--